



AIG損保

2025年3月20日広川町植樹祭について

2025年1月23日

AIG損害保険株式会社
納税協会連合会担当
肥塚 正彦

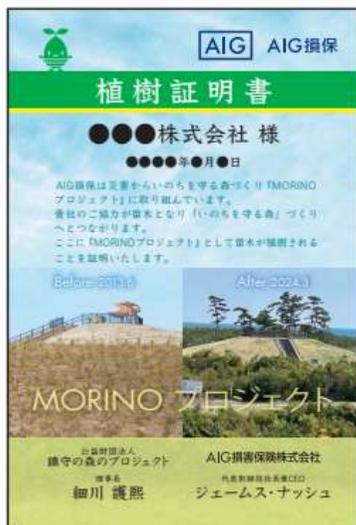
AIG損保「MORINOプロジェクト」

2025年1月、阪神淡路大震災の発生から30年を迎えました。AIG損害保険株式会社は「MORINOプロジェクト」を通じ、津波などの自然災害、火災からいのちを守る森づくりに取り組んでいます。

このプロジェクトは全国各地でその地域のどんぐり（常緑広葉樹の種）を拾い、ポット苗に育て、盛り土を作り、私たちが納税協会の皆さまとともにボランティアとして植樹を行う活動です。

苗木は10年、20年をかけて大きく成長し、やがて「いのちを守る森」となり、全国各地で防災・減災、SDG s に貢献していきます。

■ 植樹証明書を発行いたします



AIG 損害保険株式会社は「ビジネスガード」新規ご契約企業1社につき苗木1本の寄付を行い、また植樹活動に積極的に取り組んでいます。

ご契約企業様へは、いのちを守る森づくりへの貢献の証として植樹証明書を発行しております。

<納税協会版>
BG40記念サイトから
活動実績が確認できます



みなさまにご加入いただいた
植樹の苗木は、すくすく育て
防災・減災に役立っています。

■ これまでの活動実績

苗木相当の寄付本数:133,000 本 (2023年12月末現在)

植樹活動:全国8か所(エリア)、23回 (2024年3月末現在)

AIG 損保は、AIG 全国代理店連合会・
納税協会と連携し植樹活動を行っています。

——— 植樹集合写真 ———

2022年10月29日 大阪府阪南市



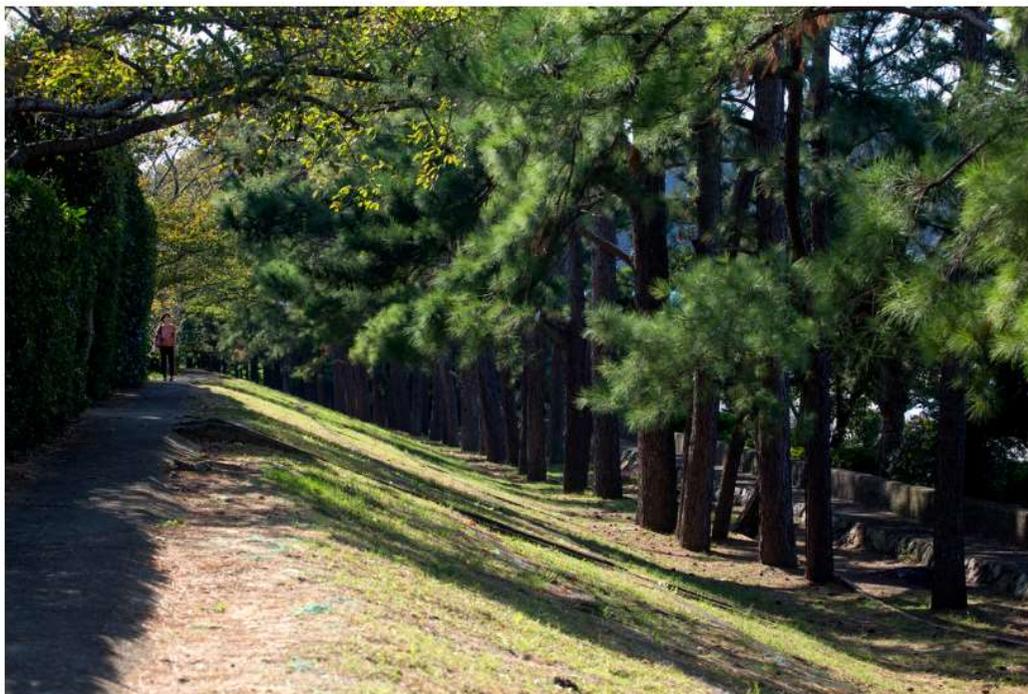
『会員企業を守りたい』ビジネスガードは40周年を迎えました

こちらより植樹した苗木の
映像がご覧いただけます。



広川町について（広村堤防）

広川を守り続ける、まちの代表スポット



国の史跡である広村堤防。1946年（昭和21年）の昭和南海地震の際、津波から町を守った堤防は、いまもわたしたちの町を見守るシンボルであり、地元の人たちの散歩道にもなっています。稲むらの火の館で申し込み、耐久社や濱口梧陵銅像とあわせて、語り部による案内付きで見学できます。

広村大防波堤の築造（広川町誌より抜粋）

安政元年（1854年）に起きた地震津波により、広村は大きな被害を受けました。田畑は土砂に覆われて耕作することもできず、漁夫も船と漁具を失い明日の生計を立てることができませんでした。住民は行く末を案じて移住したり、あるいは他村の親戚を頼って日一日と離散するばかりでした。



濱口 梧陵
(1820-1885)

梧陵はこの有様を見て、切に被害民を救済する必要を感じ、家を失った者には住宅を建築し、漁夫のためには船と漁具とを買い与え、農夫には荒廃した田畑を改修するなど、我を忘れて救済に従事しました。安政2年正月から翌3年正月までに家屋50軒を新築し、貧困な者には無料で住まわせ、多少の資力がある者には10ヶ年の年賦で貸し与え、農民には農具を揃えて家に応じて分配し、商人には資本を貸し与えて自立を促しました。

これとともに、広村を永久に津波から守るため堅固な堤防を築くことを決心し、濱口吉衛門と協力して、紀州藩に自費による防波堤工事を上申しました。

広村の海岸には、昔から畠山氏が築いた石堤がありました。高さ1間半あまりで、大津波の時は潮水がこれを越えてしまっていました。そこで津波の潮の高さを考慮して、**石垣の背後に更に高さ二間半、根幅11間、天幅4間、長さ500間（※1）の大防波堤の築造を計画**しました。

そして間もなく許可が下りましたので、安政2年2月から工事に着手しました。

いつまでも救助米に頼っていることでは、被災者らの自立を妨げるため、この工事に雇用することで生産的に窮民を救済し、広村が安全地帯となるよう努力をさせました。村民の喜びは一方ならず、生計困難であった者もこれによって元気を取り戻し、離散を思い止まるようになったため、戸数もあまり減らずにすみました。そして、農繁期には工事を中止し、安政5年12月まで工事は続けられました。当初築堤は延長500間で広川堤まで迂回する予定でしたが、諸般の事情から予定の計画に達することができず、370間に止められました。この工事の延べ人員は56,736人でその費用は銀94貫344匁（※2）を要したということです。また、防波堤の完成と同時に、土堤の外面の堤脚に松樹数百株と土堤の内面及び堤上に八ヶ樹数百株を植え、防潮林を造成しました。ちなみにこの松樹は樹齢およそ20～30年のものを山から持ち帰って植えたもので、梧陵の注意により、元々生えていた方位に植えさせたので、1本も枯れることがなかったと伝えられています。



※1：実際の大きさは、延長652.3m、高さ3～3.4m、平均海面上約4.5m、根幅17～17.4m、天幅2.5～3mとなっています。
※2：銀94貫344匁は金1572両になります。日本銀行貨幣博物館によると、江戸時代末期の大工の賃金で換算すると1両＝約35万円ということなので、梧陵らはこの堤防に約5億円の巨額の私財を投じたことになります。

「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～



日本遺産
広川町

津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産 **(全国で唯一の防災遺産)**
安政元年(1854)の南海地震から生まれた濱口梧陵の逸話「稲むらの火」やその約50年後にあたる明治36年(1903)、犠牲者の慰霊や防災意識の継承を目的として始まった伝統の祭り「津浪祭」など広川町の防災文化にまつわるストーリーが日本遺産「百世の安堵」です。
地域で受け継がれてきた26の建造物や祭りなどで構成されています。

STORY 01

稲むらの火

安政元年(1854)11月5日、大地震が発生し、やがて暗闇の広村(現在の広川町)に津波が襲いかかります。それを察知した濱口梧陵は、田の稲むらに火を放って高台の寺社に逃げる人々の明かりとし、多くの命を救いました。

STORY 02

まちの復興に向けて

被害を受けた人々は、今後の生活や災害を案じて移住しようとしていました。そこで梧陵は、私財を投じて堤防を築く計画をたて、作業に関わった村人に資金を支給。産業や教育も支援し、まちの復興と発展に力を入れました。

STORY 03

防災が息づくまち

広川町では安政の津波で人々が逃れた大道を避難経路の軸に据え、避難場所となった広八幡神社が今もその役割を果たしています。昭和21年(1946)の地震の際には梧陵らの築いた堤防が津波の流入を防ぎ、まちを守りました。

STORY 04

防災意識の継承

人々は先人の警鐘を暮らしに息づく祭りとして受け継ぎ、津波防災の心得や先人への感謝の言葉を刻んだ石碑を神社や堤防などに建立しました。100年先を見据えた防災遺産と防災文化は現在も広川町に受け継がれています。

スケジュール

■植樹地：広川町 耐久中学校グラウンド（和歌山県有田郡広川町広 1 1 2 3）

■スケジュール 開催日：2025年3月20日（木・祝）

12:00 受付開始 ※12:45までに受付をお済ませください

12:55までに開会式場に整列（耐久中学運動場）

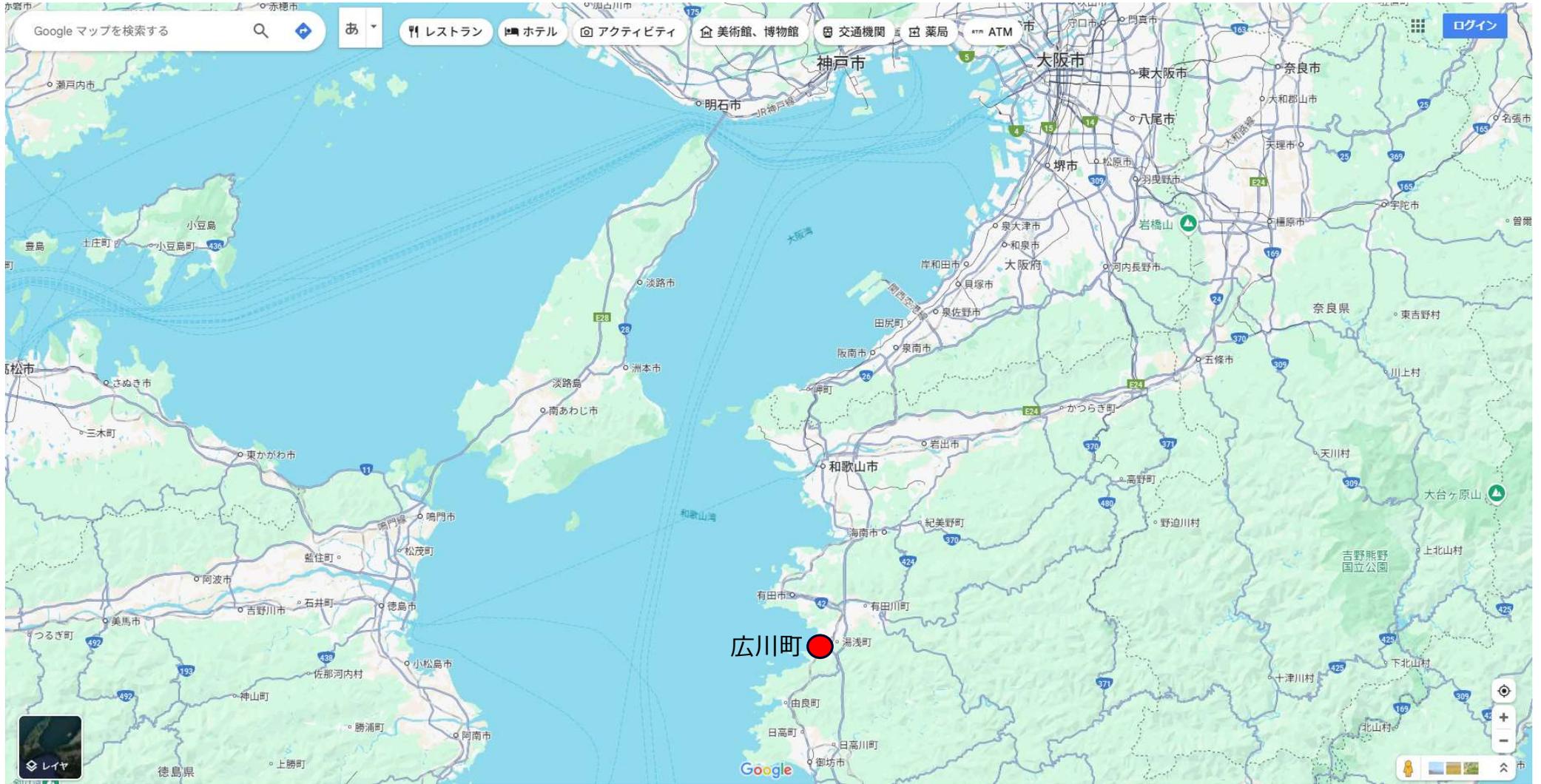
13:00-13:30 開会式&全体記念撮影

13:30-15:00 植樹

※植樹終了後解散。閉会式はありません。

※お弁当の用意はございませんのでご了承ください。

和歌山県広川町



駐車場と受付



持ち物・服装

AIG Tシャツ、汚れてもよい服と靴、軍手、レインコートなどの雨具（傘はNG）、飲み物、リュックサックやボディーバッグなど両手が使えるバッグ

- お荷物は各自管理になりますので、最小限にとどめてください。保管場所はありません。
- ゴミは各自で管理し、お持ち帰りください。
- 受付でAIGボランティアTシャツと納税協会ロゴ入りキャップをお配りします（キャップは、広報上、AIG社員と他団体を判別するためのものです）
- お配りしたAIG Tシャツを着用ください。更衣室のご用意はありません。着用の上お越しただいて構いません。
- Tシャツの下に長袖を着ることをお勧めします。植えた苗木の上に藁をかぶせる際に、藁が腕に刺さる可能性があるためです。

安全に植樹祭に参加していただくための注意事項：

- ① 参加にあたっては全員氏名、連絡先を事前にご登録いただきたいと思います。
- ② 体調がすぐれない場合（発熱、咳などの症状）は参加をお控えください。
- ③ 屋外での作業ですので熱中症には充分にご注意いただき水分補給を行ってください。
※飲み物は会場にもご用意しておりますが、ご自身でもご用意ください。
- ④ 植樹地には段差があるため、転落等ケガがないよう充分にご注意ください。
- ⑤ 汚れてもよい服装、クツでご参加ください。（着替えを準備しておくことをお勧めします。）
- ⑥ 雨天決行（当日朝6時の時点で警報発出の場合は翌日に延期となります）
- ⑦ 全エリア禁煙です。
- ⑧ AIGの行動規範に沿った、良識と責任ある行動を心がけていただくようお願いいたします。

当日の緊急連絡先：070-1583-6505（AIG損保・肥塚携帯）

案内文と参加申込書

令和7年1月吉日

納税協会奈良ブロック青連協のみなさま

AIG損害保険株式会社

「稲村の火といのちを守る植樹祭」のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 日頃は一方ならぬご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 来る3月20日に和歌山県の広川町に所在する広川町立耐久中学校の校庭にて植樹祭を開催する運びとなりましたので、ご案内致します。この植樹の目的は、南海トラフ地震による津波の被害を抑えたり、火災時の延焼を防ぐなど、子どもたちや地域住民の皆さまを守る効果が期待されております。
 また、広川町は「いなむらの火」の逸話でも有名な防災・減災に力を入れている町であり、ここで植樹祭を開催することは大きな意味を持っていると考えております。
 つきましては、以下に植樹祭の詳細、注意事項等をご案内致しますので、ご確認いただきご参加いただきます様お願い申し上げます。

記

- 日時 令和7年3月20日(木・祝) 13時00分～15時00分
 ※受付開始 12:00 (13:00より耐久中学校グラウンドにてセシモニーを開催します)。
- 場所 和歌山県有田郡広川町広 1123 「広川町立 耐久中学校グラウンド」
- 予定植樹本数 5,000本
- 主催 広川町
- 共催 公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト (MORINO PROJECT)、
 AIG損害保険株式会社、公益財団法人納税協会連合会
- 目的 津波から子どもと地域と暮らしを守る森をつくります。
- 持ち物 汚れてもよい服と靴、帽子、リュックサック、軍手、雨具、タオル、飲み物。
 ※お荷物は各自管理になりますので、最小限にとどめてください。
- 雨天の場合 雨天決行。荒天延期。
 前々日の18時の天気予報で鎮守の森のプロジェクトが実施が延期を判断しご連絡させていただきます。
 ※当日朝、警報が出た場合は翌日に延期。注意報の場合は実施。
- 駐車場 広川町役場の駐車場に駐車ください(別添地図をご参照ください)。

その他ご不明な点につきましては、以下にご連絡下さい。

AIG損害保険株式会社 法人開発推進部
 肥塚 正彦 (こえづか まさひこ)
 携帯電話番号 070(1583)6505

以上

【植樹場所】



写真中央の赤い囲みは今回の植樹地です。写真の右側に見える緑の帯は、江戸時代に築かれた広村防壁です。今回は、植樹地の環境に合った樹種を選び、生態学的知見を取り入れた定植方式によるいのちを守る場所をつくります。このプロジェクトは、江戸時代の歴史と現代の生態学的技術が融合する、大規模な取り組みです。この森の防衛壁は、防災の役割を果たすだけでなく、自然と共生する持続可能な未来を育てる役割も担います。

【駐車場】

広川町役場駐車場に駐車の上、徒歩にて会場までお越しください。徒歩で約12分です。



「稲村の火といのちを守る植樹祭」 植樹祭参加申込書（納税協会様用）

申込締切日：2025年2月21日（金）

開催日時：2025年3月20日(木)12:00 受付開始 / 雨天決行（荒天延期3月23日）

アクセス手段	
①電車の方は最寄り、JR湯浅駅から無料シャトルバスを利用ください。	12時00分から随時、12時30分まで運行。（復路運行あり）
②自家用車の方は植樹祭特設駐車場を利用ください。	駐車場から広村堤防散策ルートで徒歩10分

■ 申込みは下部に必要事項をご記入の上 FAXでお申込みください（送り先：右上部参照）

申込者名： _____ メールアドレス： _____

所属協会： _____ 氏名（会社名）： _____

連絡先TEL（緊急時連絡可能な携帯番号）： _____

● AIGボランティアTシャツ / AIGキャップをプレゼントいたします、参加者名(*)とサイズをご記入ください。

① 申込者名 _____ Tシャツサイズ おとな：LL / L / M / S こども：140cm / 120cm / 100cm

② 参加者名 _____ Tシャツサイズ おとな：LL / L / M / S こども：140cm / 120cm / 100cm

③ 参加者名 _____ Tシャツサイズ おとな：LL / L / M / S こども：140cm / 120cm / 100cm

④ 参加者名 _____ Tシャツサイズ おとな：LL / L / M / S こども：140cm / 120cm / 100cm

※ 上記以外のTシャツサイズをご希望の方は申し出ください。→（上記番号： _____ サイズ： _____）ご希望に沿えない場合もあります。

※ (*) 参加者には後日、上記参加者名にて植樹証明書を発行します。フルネームでお間違えないようご記入をお願いいたします。

当日撮影した映像・写真が社内外で使用されることを予め承しました

※ 合意いただけましたら、ボックスに確認のチェック(レ点)をお願いいたします